

授業科目名	身体表現論	担当教員	児玉 北斗 岡元 ひかる
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第3クォーター		
講義内容	この授業では、身体に重点を置いたさまざまな表現活動が、舞台芸術の領域にとどまらず、私たちの社会や環境で起きている事象とどのように関わっているのかを考えてゆきます。そのために、身体やパフォーマンスについて論理的に思考するための理論や哲学的話題を紹介してゆくものです。		
到達目標	身体表現を軸として、芸術や観光などを領域横断的に思考することができる。身体やパフォーマンスがもつ多面性に関する理論的系譜を踏まえ、それが社会において果たす役割について具体例を挙げながら論理的に説明することができる。		
授業計画	<p>2026年度は次のような身体表現の分野やテーマを用意しています</p> <p>岡元：身体をめぐる様々な逆説：政治、知覚、文化</p> <p>児玉：パフォーマンスにおける自由と不自由の二重性</p> <p>1：イントロダクション【児玉・岡元】</p> <p>2：身体と権力【岡元】</p> <p>3：世界内存在、アフォーダンス【岡元】</p> <p>4：身体の習慣【岡元】</p> <p>5：パロディの政治性【岡元】</p> <p>6：オリエンタリズムと身体【岡元】</p> <p>7：日常におけるパフォーマンス【児玉】</p> <p>8：儀礼とリミナリティ【児玉】</p> <p>9：プレイ、ルール、ゲーム【児玉】</p> <p>10：パフォーマンスティヴィティ：言語行為からジェンダーまで【児玉】</p> <p>11：行動の復元【児玉】</p> <p>12：復習と到達度チェック（授業内レポート）、質疑応答【児玉・岡元】</p>		
事前・事後学習	<p>岡元：配布資料のチェックや参考文献の部分的読解など、適宜指示します</p> <p>児玉：授業内で触れた考え方を基に、日常生活、芸術・観光との関連について考察を試みてリフレクションに記入する（岡元、児玉ともに事前・事後学習として週2時間程度）</p>		
テキスト	特に指定しません		
参考文献	適宜紹介します		

成績評価の基準	平常点 60%：毎回の授業中の様子やリフレクションの質をもとに判定 提出物 40%：授業内レポート
履修上の注意 履修要件	「パフォーマンスアート概論」を履修していることが望ましい
実践的教育	該当しない
備考欄	この授業は岡元と児玉の教員 2 名によるオムニバスタイプのものです。 定員超過の場合は選考を行います。